

大学生生活から見えた ラブなアジャイルの形

公立千歳科学技術大学 須藤真由

自己紹介

須藤真由(Sudo Mayu)

公立千歳科学技術大学の山川研究室所属
ドメイン駆動設計やテスト駆動開発の要素を取り入れた、
PBLでのシステム開発手法について研究中

- ・アジャイル開発のことを知ったのは2年前
- ・アジャイルの考え方が好き
- ・企業の方を講師に招いて学校内で
アジャイルについてのワークショップを開催
- ・この夏のインターンシップで初めて
アジャイルでのシステム開発を経験



アジャイル開発のイメージ

いい面

- ・臨機応変に柔軟な対応が可能
- ・顧客に早く動くソフトウェアを見せることができる

Individuals and interactions over processes and tools
Working software over comprehensive documentation
Customer collaboration over contract negotiation
Responding to change over following a plan

対して大変な面も、、、

- ・色んなフレームワークや方法論から適したものを選び取らなきゃ
- ・中途半端に取り入れると工数が増えるだけになっちゃう
- ・成果物を出すことを意識しすぎて焦る
- ・納期までに目標まで到達できるかな



いいところを気軽に取り入れたい

今まで「アジャイルだな」と感じてきたものはプロダクト開発だけではない

プロダクト開発ではないなら、アジャイルのフレームワーク等も適用されていない

「アジャイルな雰囲気」でみんなが満足して活動できている

→アジャイルの核となる部分やプロセス品質の考えは何事にも通じるのでは？

→「核」や「考え方」とは具体的にどういうもの？

→私の今までの経験から形式ばらない(=ラフな)アジャイルを明らかにしたい

キーポイントは「心理的安全性」

仮説と検証をなるべく早く継続的に繰り返したい
→それがやりやすい環境づくりが大事

心理的安全性

「無知、無能、ネガティブ、邪魔だと思われる可能性のある行動をしても、このチームなら大丈夫だ」と信じられるかどうか

Anzeneering (Joshua Kerievsky) の考え方

人々を守ることは、私たちができる最も重要なこと

安全の元に在る人々はリスクを取ることができる

→潜在能力を発揮できるようになる

人々を保護することはアジャイルの実践の根底にある



アジャイルのコンセプトとの関係

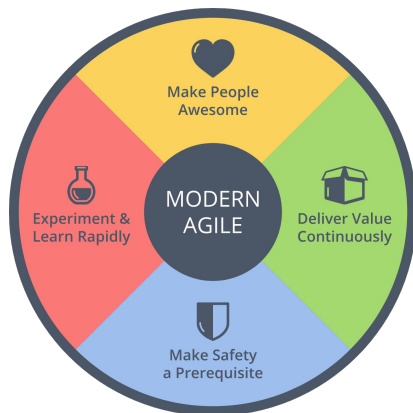
AgileJapan2017のKEYNOTE

Modern Agile

(Joshua Kerievsky)

「Make People Awesome」

「Make Safety a Prerequisite」

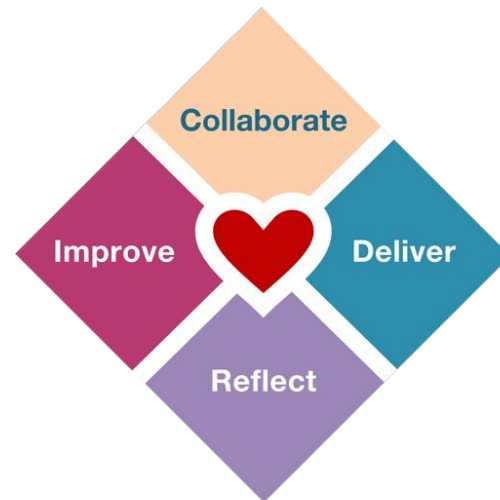


AgileJapan2021のKEYNOTE

Heart of Agile

(Alistair Cockburn)

「Collaborate」



心理的安全性を体感した
今までの経験を
Heart of Agileで
振り返ってみる

サークル活動

LINEで常に情報共有
「見つけたことなんでも言って！」

動画を撮影して踊る



上手い人が振付を教える
ズレを修正

動画で確認したり、互いに確認したり、
振付のズレを見つける

スケジュール管理

今日の私とタスクを把握
明日の私との相談

突発の用事に備えながらタスクの実行



タスク量や睡眠時間の再調整
優先順位の調整

タスクをどれだけこなせたか
次の日の満足度と疲労度を実感

趣味を通じた自己研鑽

推しから生き方・
考え方について話を聞く
配信のコメントで質問や意見の共有

配信の感想をまとめて
学んだことをアウトプット
学んだことを日々実践する



次の配信のときに
聞きたいことを準備する
さらに成長させたい部分を明確にする

次の配信時、生活を振り返る
ライブで推しに会いにいったとき、
どれくらい成長できているか振り返る

研究活動

毎週の進捗報告で
仲間と現状の共有や相談
「中途半端でもいいから見せて」
「上手くできなかったら相談して」

相談した結果に沿って進める
困ったときはモブと一緒に解決



今後の進め方を決める

進捗報告の資料をまとめる
仲間に現状の共有

ラフなアジャイルとは

- ・認めてもらえる環境

やってきたことや意見、質問が批判されないことが大事

- ・「1人にさせない」体制や一言

常に連絡を取り合える相手や迷ったときに意見を聞ける相手の存在
日頃からの現状の共有

→自分の状況を把握してもらえる、不安を共有しやすくなる

困ったときは助け合おうの姿勢

最初から1人で完璧を目指さなくていい、一緒に考えよう

まとめ

【私が思うラフなアジャイル】

認めてもらえる環境・「1人にさせない」体制や一言

どんな事柄、場合、相手であってもこの2つを意識して物事に取り組むことで
なんとなく場が和んだり、安心し合える場が作れたりする

しかも割と簡単！

- ・認めてもらえる環境→共感ベースでの会話
- ・「1人にさせない」体制や一言→一声かけるだけでも効果あり

ラフなアジャイルで周りの人や自分を幸せにしていきましょう 🍀